



B5判：160P
定価：2,300円+税

来年度から、道徳は “特別の教科”となり、 「評価」が始まります！



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行 先生

光文書院道徳教科書『小学道徳 ゆたかな心』監修。著書に『実践から学ぶ 深く考える道徳授業』（光文書院・共著）、『子どもが、授業が、必ず変わる！「一期一会」の道徳授業』（東洋館出版社・共著）他多数。

道徳における「評価」とは？

道徳の評価とは何か。誰が何を評価するのか。これはなかなか難しい問題です。教科になったから評価がいついてくるのだと言われればそうですが、そんな単純なことではないでしょう。少なくとも、**教員は子どもの道徳性を評価できません。**なぜなら、素直さ、正直さ、前向きさなどに關して、大人は子どもに勝てないからです。道徳的に誰が優れていて誰が劣っているかなど、誰にも判別できません。評価者と被評価者の線引きができません。評価のしようがありません。けれど、**子どもが自分自身を評価することはできません。**その評価が正しいかどうかは問題ではありません。自己評価能力を高め、よりよく生きようとする力をつけるのです。

また、**教員自身が自らの授業展開の成果や改善点を振り返り、次につなげるために、道徳の授業を評価することもできます。**そのときに参考になるのは、子どもの育ち・変容です。ですから、子どもの道徳性の育ちを知るための「ものさし」は必要になります。これを「評価」と呼ぶかどうかという事です。私は「評価」というより、「意味づけ」とか「承認・賞賛」と呼んだほうがよいと思っています。そ

れが、文部科学省の言葉を借りれば、「見取り」ということになるでしょう。

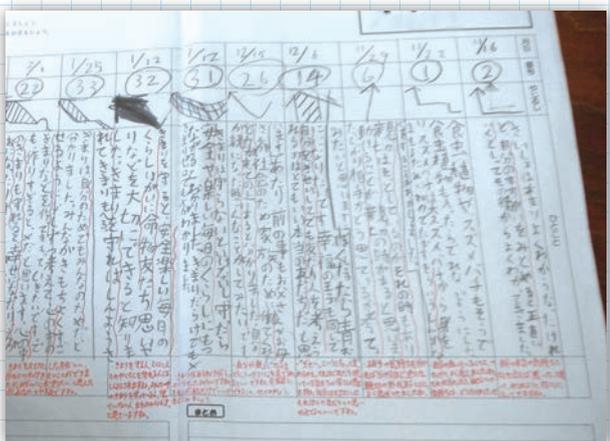
子どもの何を評価するのか？

そもそも、道徳における「評価」、子ども自身の自己評価や、教員の授業評価、子どもの道徳性の育ちの見取りは、何をもつてするのでしょうか。例えば、元気にあいさつできるAさんがいるとします。それに対して、あまり元気にあいさつできないBさんがいます。どちらの礼儀正しさが上でしょうか。点数をつけるとしたら、Aさんは何点でしょうか。100点でしょうか。仮にAさんを100点としたら、Bさんは何点でしょうか。50点くらいでしょうか。少なくとも、Aさんより上ということはないですね。けれど、Aさんは元から元気な性格なのかもしれません。あいさつをすることをクラブで厳しく教え込まれているのかもしれません。それに対してBさんは、元来あまり積極的にあいさつをする子ではなかったけれど、それでもがんばって声を振り絞っているのかもしれません。そう考えると、**目に見える行為だけを取り上げて、点数をつける評価などできない、ナンセンスだ**という感じがきます。むしろ、そのような目に見える100点を目標とするような教育を目指したら、表面を取り繕い、

要領よく生きる人間を育てることにつながりかねません。

子どものよりよく生きようとする姿勢こそ評価したい！

人間は皆、不完全な存在であるという自覚の元、「**〜**ができたかどうか」ではなく、「**〜**を求め、**〜**しようとしたか」を見取り、評価してあげること、子どもは伸びていくのだらうと思います。「**子どもに寄り添い、よりよく生きる存在として一人ひとりの豊かな心を育んでいく**」ことができる、**そんな評価をしたい**ものです。それが、本書を通してお伝えしたい我々の願いです。



子どもが書いた学習履歴図

編著者に聞く！『実践！子どもが主役の授業づくり』



B5判：128P
定価：1,500円+税

算数の
主体的・対話的で
深い学びとは!?



青山学院大学特任教授
坪田 耕三 先生

青山学院大学教育人間科学部特任教授、ハンズオン・マス研究会代表。著書に教科書『小学算数』（教育出版）、『算数科授業づくりの発展・応用』（東洋館出版社）他多数。

子どもを主役にした
授業づくりに向けて

新しい学習指導要領が登場しました。小学校算数の内容については、大きく変わるところはないようですが、子ども**主体的・対話的で深い学び**が強調されています。

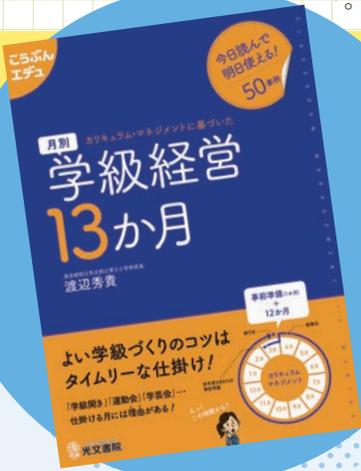
特に数学的思考に焦点を当てるならば、思考力・判断力・表現力を育成するところにポイントがあります。このことを強く意識した授業を考えると、「**覚える算数から、考える算数へ**」の転換が必要になるでしょう。そこでは、「なぜ」そうなるのか、と論理的に考える力を育てる必要があります。そして、一つの問題を解いただけで終わりにせず、「もしも、そうでなかったらどうなるのか。」と発展的に考えるようにするならば、思考は広がり、深まるようになります。

本書では、そのようなことを目指す「授業」を考え、その流れを紹介します。ここで紹介する授業実践は、全て実際に行ったものです。

また、子どもが楽しく学ぶための工夫として、「100」が絡んだ問題など、コラムを100個も用意しました。

「算数は楽しい。」「算数は役に立つ。」といった意識を子どもたち自身ももてるように期待した一冊です。

著者に聞く！『月別 学級経営13か月』



B5判：120P
定価：1,500円+税

学級経営の達人の
タイムリーな仕掛けの
秘訣とは!?



狛江市立狛江第三小学校校長
渡辺 秀貴 先生

東京都算数教育研究会常任理事、東京都公立学校情緒障害教育研究会会長。著書に『A4・1枚で学校を動かす 実例シート82』（教育開発研究所）他多数。

担任発表のその日から、
戦略的に進める学級づくり

魅力ある学級づくりこそ、授業実践の基盤です。子どもたちが共通の目標に向かって、それぞれのよさを発揮しながら協働している学級集団では、どの授業でも主体的で対話的な学びが展開されます。全ての学級で、子ども同士、子どもと担任の関係性がよく、何事にも前向きで、その成果を喜び合う光景が日々見られるような学校であってほしいと、誰もが強く願っています。

しかし、どんどん増える教育課題の解決や、多様化する子ども・保護者への対応に多くの時間とエネルギーをかけている教員は、学級づくりの方法を丁寧に学ぶ時間がありません。経験則のある先輩教員の実践を模倣しながら、何とか日々の学級指導に当たっているという先生も少なくないでしょう。

本書は、学級集団づくりのための様々な取り組みを「**何のために」「どのタイミングで」「どのような手立てを講じるか**」、つまり学級指導の本質に迫るスキルを身につけ、**学級経営を戦略的に進める実践例を、月別に分かりやすく紹介**しています。

経験年数に関係なく、学級経営の腕を上げたい先生、あるいはアドバイスをする立場にある先生にも参考になるように構成してありますので、ぜひ一読ください。